

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会の IF 記載要領 2008 に準拠して作成

頻尿治療剤

ハルニンコーワ錠 200mg

フラボキサート塩酸塩製剤

HARNIN KOWA TABLET 200mg

剤形	錠剤(フィルムコーティング錠)
製剤の規制区分	該当しない
規格・含量	1 錠中 フラボキサート塩酸塩 200mg 含有
一般名	和名:フラボキサート塩酸塩(JAN) 洋名:Flavoxate Hydrochloride(JAN)
製造販売承認年月日 薬価基準収載・ 発売年月日	製造販売承認年月日:2008 年 9 月 25 日(販売名変更による) 薬価基準収載年月日:2008 年 12 月 19 日(販売名変更による) 発売年月日:1984 年 8 月 30 日
開発・製造販売(輸入)・提携・ 販売会社名	販売元:興和テバ株式会社 製造販売元:大正薬品工業株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	興和テバ株式会社 医薬情報センター フリーコール:0800-919-0189 FAX:03-5299-9119 受付時間:9:00~17:00(土・日・祝日を除く) 医療関係者向けホームページ http://www.teva-kowa.co.jp/

本 IF は 2012 年 2 月改訂の添付文書の記載に基づき改訂した。

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器情報提供ホームページ <http://www.info.pmda.go.jp/> にてご確認ください。

IF 利用の手引きの概要

—— 日本病院薬剤師会 ——

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和 63 年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IF と略す）の位置付け並びに IF 記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第3小委員会において IF 記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過した現在、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会において新たな IF 記載要領が策定された。

2. IF とは

IF は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は IF の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された IF は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

〔IF の様式〕

- ①規格は A4 版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤字・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF 記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF 利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

〔IF の作成〕

- ①IF は原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②IF に記載する項目及び配列は日病薬が策定した IF 記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとの IF の主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領 2008」（以下、「IF 記載要領 2008」と略す）により作成された IF は、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[IF の発行]

- ①「IF 記載要領 2008」は、平成 21 年 4 月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF 記載要領 2008」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合には IF が改訂される。

3. IF の利用にあたって

「IF 記載要領 2008」においては、従来の主に MR による紙媒体での提供に替え、PDF ファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則で、医療機関での IT 環境によっては必要に応じて MR に印刷物での提供を依頼してもよいこととした。

電子媒体の IF については、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IF の原点を踏まえ、医療現場に不足している情報や IF 作成時に記載し難い情報等については製薬企業の MR 等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IF の利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IF が改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IF の使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IF を薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IF は日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IF があくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2008 年 9 月)

目 次

I 概要に関する項目	1
1. 開発の経緯	1
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1
II 名称に関する項目	2
1. 販売名	2
(1)和名	2
(2)洋名	2
(3)名称の由来	2
2. 一般名	2
(1)和名(命名法)	2
(2)洋名(命名法)	2
(3)ステム	2
3. 構造式又は示性式	2
4. 分子式及び分子量	2
5. 化学名(命名法)	2
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	2
7. CAS 登録番号	2
III 有効成分に関する項目	3
1. 物理化学的性質	3
(1)外観・性状	3
(2)溶解性	3
(3)吸湿性	3
(4)融点(分解点)、沸点、凝固点	3
(5)酸塩基解離定数	3
(6)分配係数	3
(7)その他の主な示性値	3
2. 有効成分の各種条件下における安定性	3
3. 有効成分の確認試験法	3
4. 有効成分の定量法	3
IV 製剤に関する項目	4
1. 剤 形	4
(1)剤形の区別、規格及び性状	4
(2)製剤の物性	4
(3)識別コード	4
(4)pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定な pH 域等	4
2. 製剤の組成	4
(1)有効成分(活性成分)の含量	4
(2)添加物	4
(3)その他	4
3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	4
4. 製剤の各種条件下における安定性	4
5. 調製法および溶解後の安定性	4
6. 他剤との配合変化(物理化学的变化)	5
7. 溶出性	5
8. 生物学的試験法	5

9. 製剤中の有効成分の確認試験法	5
10. 製剤中の有効成分の定量法	5
11. 力 価	5
12. 混入する可能性のある夾雑物	5
13. 治療上注意が必要な容器に関する情報	6
14. その他	6
V 治療に関する項目	7
1. 効能又は効果	7
2. 用法及び用量	7
3. 臨床成績	7
(1)臨床データパッケージ	7
(2)臨床効果	7
(3)臨床薬理試験：忍容性試験	7
(4)探索的試験：用量反応探索試験	7
(5)検証的試験	7
1) 無作為化並行用量反応試験	7
2) 比較試験	7
3) 安全性試験	7
4) 患者・病態別試験	7
(6)治療の使用	7
1) 使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査) ・製造販売後臨床試験(市販後臨床試験)	7
2) 承認条件として実施予定の内容又は 実施した試験の概要	7
VI 薬効薬理に関する項目	8
1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	8
2. 薬理作用	8
(1)作用部位・作用機序	8
(2)薬効を裏付ける試験成績	8
(3)作用発現時間・持続時間	8
VII 薬物動態に関する項目	9
1. 血中濃度の推移・測定法	9
(1)治療上有効な血中濃度	9
(2)最高血中濃度到達時間	9
(3)臨床試験で確認された血中濃度	9
(4)中毒域	9
(5)食事・併用薬の影響	9
(6)母集団(ポピュレーション)解析により判明した 薬物体内動態変動要因	9
2. 薬物速度論的パラメータ	10
(1)コンパートメントモデル	10
(2)吸収速度定数	10
(3)バイオアベイラビリティ	10
(4)消失速度定数	10
(5)クリアランス	10
(6)分布容積	10
(7)血漿蛋白結合率	10

3. 吸 収	10	IX 非臨床試験に関する項目	15
4. 分 布	10	1. 薬理試験	15
(1)血液－脳関門通過性	10	(1)薬効薬理試験	15
(2)血液－胎盤関門通過性	10	(2)副次的薬理試験	15
(3)乳汁への移行性	10	(3)安全性薬理試験	15
(4)髄液への移行性	10	(4)その他の薬理試験	15
(5)その他の組織への移行性	10	2. 毒性試験	15
5. 代 謝	10	(1)単回投与毒性試験	15
(1)代謝部位及び代謝経路	11	(2)反復投与毒性試験	15
(2)代謝に關与する酵素(CYP450 等)の分子種	11	(3)生殖発生毒性試験	15
(3)初回通過効果の有無及びその割合	11	(4)その他の特殊毒性	15
(4)代謝物の活性の有無及びその比率	11	X 管理的事項に関する項目	16
(5)活性代謝物の速度論的パラメータ	11	1. 規制区分	16
6. 排 泄	11	2. 有効期間又は使用期限	16
(1)排泄部位及び経路	11	3. 貯法・保存条件	16
(2)排泄率	11	4. 薬剤取扱い上の注意点	16
(3)排泄速度	11	(1)薬局での取り扱いについて	16
7. 透析等による除去率	11	(2)薬剤交付時の注意	
		(患者等に留意すべき必須事項等)	16
VIII 安全性(使用上の注意等)に関する項目	12	5. 承認条件等	16
1. 警告内容とその理由	12	6. 包装	16
2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む)	12	7. 容器の材質	16
3. 効能又は効果に関連する		8. 同一成分・同効薬	16
使用上の注意とその理由	12	9. 国際誕生年月日	17
4. 用法及び用量に関連する		10. 製造販売承認年月日及び承認番号	17
使用上の注意とその理由	12	11. 薬価基準収載年月日	17
5. 慎重投与と内容とその理由	12	12. 効能・効果追加、用法・用量変更追加等の	
6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	12	年月日及びその内容	17
7. 相互作用	12	13. 再審査結果、再評価結果公表年月日	
(1)併用禁忌とその理由	12	及びその内容	17
(2)併用注意とその理由	12	14. 再審査期間	17
8. 副作用	12	15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	17
(1)副作用の概要	12	16. 各種コード	17
(2)重大な副作用と初期症状	13	17. 保険給付上の注意	17
(3)その他の副作用	13	XI 文 献	18
(4)項目別副作用発現頻度及び		1. 引用文献	18
臨床検査値異常一覧	13	2. その他の参考文献	18
(5)基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等		XII 参考資料	18
背景別の副作用発現頻度	13	1. 主な外国での発売状況	18
(6)薬物アレルギーに対する注意及び試験法	13	2. 海外における臨床支援情報	18
9. 高齢者への投与	13	XIII 備 考	18
10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	13	その他の関連資料	18
11. 小児等への投与	14		
12. 臨床検査結果に及ぼす影響	14		
13. 過量投与	14		
14. 適用上の注意	14		
15. その他の注意	14		
16. その他	14		

I 概要に関する項目

1. 開発の経緯

フラボキサート塩酸塩は 1960 年イタリアで合成されたフラボン誘導体で、基礎的、臨床的研究の結果、パパベリン様の平滑筋弛緩作用を有することが明らかにされ、膀胱機能障害に基づく頻尿治療剤として開発された。

国内では 1979 年に頻尿治療剤として発売されている。

本剤はフラボキサート塩酸塩を主成分としており、薬発第 698 号(昭和 55 年 5 月 30 日)に基づき申請し、1984 年 2 月に後発医薬品として製造販売承認を取得し、上市した。その後、本剤の品質再評価結果通知(平成 13 年 12 月 25 日)を経て、2008 年 9 月に医療事故防止を目的とした厚生省医薬安全局長通知第 935 号に準拠し、販売名をハルニンコーワからハルニンコーワ錠 200mg に変更した。

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

- (1) 本剤は頻尿治療剤であるフラボキサート塩酸塩の後発医薬品である。
- (2) 本剤は神経性頻尿、慢性前立腺炎、慢性膀胱炎に伴う頻尿、残尿感に適応を有している。
(「V 1. 効能又は効果」の項参照)
- (3) 本剤は標準製剤とほぼ同等の薬物動態を示し、生物学的同等性が示されている。
(「VII. 1. (3)臨床試験で確認された血中濃度」の項参照)
- (3) 本剤は、使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないのでいずれも頻度は不明であるが、重大な副作用として、ショック、アナフィラキシー様症状、肝機能障害、黄疸(初期症状: 全身倦怠感、食欲不振、発熱、瘙痒、眼球黄染等)が報告されている。
(「VIII 8. 副作用」の項参照)

Ⅱ 名称に関する項目

1. 販売名

(1) 和名

ハルニンコーワ錠 200mg

(2) 洋名

HARNIN_{KOWA} TABLET 200mg

(3) 名称の由来

特記すべき由来はない。

2. 一般名

(1) 和名(命名法)

フラボキサート塩酸塩(JAN)

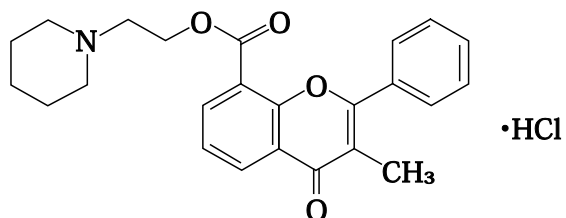
(2) 洋名(命名法)

Flavoxate Hydrochloride (JAN)

(3) ステム

不明

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式: $C_{24}H_{25}NO_4 \cdot HCl$

分子量: 427.92

5. 化学名(命名法)

2-(Piperidin-1-yl)ethyl 3-methyl-4-oxo-2-phenyl-4H-chromene-8-carboxylate
monohydrochloride (IUPAC)

6. 慣用名、別名、略号、記号番号

塩酸フラボキサート(別名)

7. CAS登録番号

3717-88-2

Ⅲ 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

白色の結晶又は結晶性の粉末である。

(2) 溶解性

酢酸(100)又はクロロホルムにやや溶けにくく、水又はエタノール(95)に溶けにくく、アセトニトリル又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。

(3) 吸湿性

該当資料なし

(4) 融点(分解点)、沸点、凝固点

該当資料なし

(5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

該当資料なし

2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法

日局「フラボキサート塩酸塩」の確認試験による

- 1) 紫外可視吸光度測定法(吸収スペクトル)
- 2) 赤外吸収スペクトル測定法(臭化カリウム錠剤法)
- 3) 塩化物の定性反応

4. 有効成分の定量法

日局「フラボキサート塩酸塩」の定量法による。

電位差滴定法

IV 製剤に関する項目

1. 剤 形

(1) 剤形の区別、規格及び性状

性 状	白色のフィルムコーティング錠
大きさ	直径:約 8.6 mm 厚み:約 5.1mm 質量:約 0.255g

(2) 製剤の物性

該当資料なし

(3) 識別コード

044

(4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定なpH域等

該当しない

2. 製剤の組成

(1) 有効成分(活性成分)の含量

1 錠中 フラボキサート塩酸塩を 200mg 含有する。

(2) 添加物

カルメロース、トウモロコシデンプン、ヒドロキシプロピルセルロース、
ステアリン酸 Mg、ヒプロメロース、マクロゴール、酸化チタン、カルナウバロウ

(3) その他

該当しない

3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当しない

4. 製剤の各種条件下における安定性

加速試験

安定性試験(室温、4 年間)の結果、外観、性状、確認試験、溶出試験及び含量は規格の範囲内であり、ハルニンコーワ錠 200mg は通常の市場流通下において 4 年間安定であることが確認された¹⁾。

5. 調製法および溶解後の安定性

該当しない

6. 他剤との配合変化(物理化学的变化)

該当しない

7. 溶出性

＜標準製剤との溶出比較試験＞

ハルニンコーワ錠 200mg は、日本薬局方外医薬品規格第 3 部に定められたフラボキサート塩酸塩錠の溶出規格に適合していることが確認されている²⁾。

試験方法: 日本薬局方 一般試験法 溶出試験法 パドル法(装置 2)

試験液: 水

回転数: 50rpm

溶出規格

表示量	規定時間	溶出率
200mg	45min	70%以上

8. 生物学的試験法

該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

- 1) フラボン骨格に基づく呈色反応
- 2) ライネッケ反応(3 級アミンの検出)

10. 製剤中の有効成分の定量法

液体クロマトグラフィー

11. カ 価

該当しない

12. 混入する可能性のある夾雑物

3-methylflavone-8-carboxylic acid, 3-methylflavone-8-carboxylic acid methylester, 3-methylflavone-8-carboxylic acid ethylester, ピペリジノエタノール
日本薬局方(JP16)医薬品各条の純度試験で規定されている。

(試験法)

純度試験(3)類縁物質

本品 80mg をとり、クロロホルム 10mL に溶かし、試料溶液とする。この液 1mL を正確に量り、クロロホルムを加えて正確に 20mL とする。この液 1mL を正確に量り、クロロホルムを加えて正確に 20mL とし、標準溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフィーにより試験を行う。試料溶液及び標準溶液 5 μ L ずつを薄層クロマトグラフィー用シリカゲル(蛍光剤入り)を用いて調製した薄層板にスポットする。次に 1-ブタノール/水/酢酸(100)混液(3:1:1)を展開溶媒として、約 12cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線(主波長 254nm)を照射するとき、試料溶液から得た主スポット以外のスポットは標準溶液から得たスポットより濃くない。

13. 治療上注意が必要な容器に関する情報

該当資料なし

14. その他

特になし

V 治療に関する項目

1. 効能又は効果

下記疾患に伴う頻尿、残尿感
神経性頻尿、慢性前立腺炎、慢性膀胱炎

2. 用法及び用量

通常成人 1 回 1 錠、1 日 3 回経口投与する。
年齢、症状により適宜増減する

3. 臨床成績

該当資料なし

(1) 臨床データパッケージ(2009 年 4 月以降承認品目)

(2) 臨床効果

(3) 臨床薬理試験：忍容性試験

(4) 探索的試験：用量反応探索試験

(5) 検証的試験

1) 無作為化並行用量反応試験

2) 比較試験

3) 安全性試験

4) 患者・病態別試験

(6) 治療的使用

1) 使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査)・製造販売後臨床試験(市販後臨床試験)

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

VI 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

オキシブチニン塩酸塩、プロピペリン塩酸塩

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序

膀胱充満時の筋の律動収縮を抑制するとともに、膀胱支配神経（骨盤神経、下腹神経）の興奮による膀胱収縮を緩解する。また膀胱平滑筋に対し弛緩作用を示す。その作用態度は抗コリン薬やパパペリンとは明らかに異なり、平滑筋に対してはその緊張性を保ち、排尿力を低下することなく、正常排尿力を保持する。

(2) 薬効を裏付ける試験成績³⁾

1. 排尿回数を減少する。

排尿の準備段階である膀胱充満時の律動収縮を抑制し、亢進した排尿反射を減少する（ラット）。

2. 排尿力を保持する。

膀胱平滑筋に対し弛緩的に作用するが、一方、向筋的な作用によりその緊張性を高め、排尿力を低下することなく正常排尿をきたす（モルモット *in vitro*、ラット）。

3. その他の作用

胃腸管、唾液分泌等の自律神経系に対する作用は軽微である（ウサギ、モルモット *in vitro*、ラット、マウス）。

(3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間

「VII 1. (3) 臨床試験で確認された血中濃度」の項参照

(3) 臨床試験で確認された血中濃度

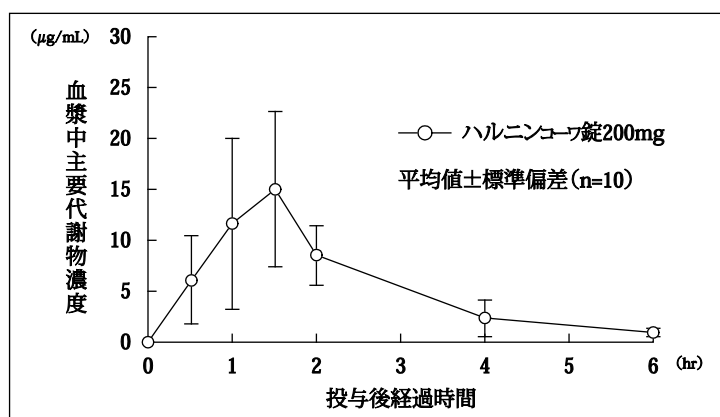
＜生物学的同等性＞

ハルニンコーワ錠 200mg と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ 2 錠（フラボキサート塩酸塩として 400mg）^注 健康成人男子に絶食時単回経口投与して血漿中主要代謝物 3-メチルフラボン-8-カルボン酸濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC、C_{max}、T_{max}、T_{1/2}）について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された⁴⁾。

注) 本剤の承認された成人の 1 回用量は 1 錠 (200mg) である。

	AUC _{0-6hr} ($\mu\text{g}\cdot\text{hr}/\text{mL}$)	C _{max} ($\mu\text{g}/\text{mL}$)	T _{max} (hr)	T _{1/2} (hr)
ハルニンコーワ錠 200mg	32.87 ± 11.18	16.81 ± 7.60	1.60 ± 0.91	0.99 ± 0.33

平均値 ± 標準偏差 (n=10)



血漿中濃度並びに AUC、C_{max} 等のパラメータは、被験者の選択、血液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

該当資料なし

(6) 母集団（ポピュレーション）解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

該当資料なし

(1) コンパートメントモデル

(2) 吸収速度定数

(3) バイオアベイラビリティ

(4) 消失速度定数

(5) クリアランス

(6) 分布容積

(7) 血漿蛋白結合率

3. 吸 収

該当資料なし

(参考)

経口投与後消化管から効率よく吸収されるといわれている。

4. 分 布

(1) 血液－脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液－胎盤関門通過性

「Ⅷ 10.妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照

(3) 乳汁への移行性

該当資料なし

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代 謝

該当資料なし

(1) 代謝部位及び代謝経路

(2) 代謝に関与する酵素(CYP450 等)の分子種

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

(4) 代謝物の活性の有無及びその比率

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

(参考)

生体内において、速やかに 3-methylflavone-8-carboxylic acid になり、尿中に排泄されるといわれている。

6. 排 泄

該当資料なし

(1) 排泄部位及び経路

(2) 排泄率

(3) 排泄速度

7. 透析等による除去率

該当資料なし

VIII 安全性(使用上の注意等)に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当しない

2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む)

次の患者には投与しないこと

- (1) 幽門、十二指腸及び腸管が閉塞している患者〔弱い副交感神経抑制作用により、腸管運動が抑制されるため。〕
- (2) 下部尿路に高度の通過障害のある患者〔弱い副交感神経抑制作用があるので、排尿筋を弛緩、膀胱括約筋を収縮させるおそれがある。〕

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- (1) 緑内障の患者〔弱い副交感神経抑制作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させるおそれがある。〕
- (2) 肝障害又はその既往歴のある患者〔副作用として肝障害が報告されている。〕

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

該当しない

7. 相互作用

(1) 併用禁忌とその理由

該当しない

(2) 併用注意とその理由

該当しない

8. 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 重大な副作用と初期症状

重大な副作用（頻度不明）

- 1) ショック、アナフィラキシー様症状：ショック、アナフィラキシー様症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、蕁麻疹、冷汗、呼吸困難、喉頭浮腫、血圧低下等の異常が認められた場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 2) 肝機能障害、黄疸（初期症状：全身倦怠感、食欲不振、発熱、瘙痒、眼球黄染等）：AST (GOT)、ALT (GPT)、 γ -GTP、Al-P、ビリルビンの著しい上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(3) その他の副作用

	0.1%～5%未満	0.1%未満	頻度不明
消化器	胃部不快感、食欲不振、 悪心、口渇、下痢、便秘等		嘔吐、胃痛、 腹痛、胸やけ
過敏症 ※	発疹、瘙痒感		
精神神経系		眠気、不眠、頭痛、めまい、 頭部のふらふら感、しびれ感	
眼		つかれ目、眼圧亢進、調節 障害	
血液 ※		好酸球増多、白血球減少	
泌尿器		排尿困難、尿閉	
その他	下腹部膨満感、 顔面熱感	動悸、胸部不快感、熱感、 咽頭部異和感、嗄声	

※投与を中止すること。

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

- 1) ショック、アナフィラキシー様症状：ショック、アナフィラキシー様症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、蕁麻疹、冷汗、呼吸困難、喉頭浮腫、血圧低下等の異常が認められた場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 2) 発疹、瘙痒感があらわれた場合は、投与を中止すること。

9. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

動物実験（マウス、ラット）で胎児毒性が認められているので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。

11. 小児等への投与

小児に対する臨床評価及び安全性は確立していないので投与しないことが望ましい。

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当資料なし

13. 過量投与

該当資料なし

14. 適用上の注意

薬剤交付時:PTP 包装の薬剤は PTP シートから取り出して服用するよう指導すること。(PTP シートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。)

15. その他の注意

該当資料なし

16. その他

特になし

Ⅸ 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

該当資料なし

(1) 薬効薬理試験(「Ⅵ. 薬効薬理に関する項目」参照)

(2) 副次的薬理試験

(3) 安全性薬理試験

(4) その他の薬理試験

2. 毒性試験

該当資料なし

(1) 単回投与毒性試験

(2) 反復投与毒性試験

(3) 生殖発生毒性試験

(4) その他の特殊毒性

X 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製 剤:該当しない

有効成分:該当しない

フラボキサート塩酸塩

劇薬(1 個中フラボキサートとして、200mg 以下を含有するもの及び 20%以下を含有する顆粒剤は除かれる)

2. 有効期間又は使用期限

使用期限:外箱に表示(4 年)

3. 貯法・保存条件

室温保存

4. 薬剤取扱い上の注意点

(1) 薬局での取り扱いについて

特になし

(2) 薬剤交付時の注意(患者等に留意すべき必須事項等)

「Ⅷ 14.適用上の注意」の項参照

5. 承認条件等

特になし

6. 包装

PTP:100 錠、500 錠、1000 錠

バラ:500 錠

7. 容器の材質

PTP 包装	PTP シート	塩化ビニルフィルム、アルミニウム箔
	ピロー	アルミニウム・ポリエチレンラミネートフィルム
バラ包装	ボトル	ポリエチレン
	キャップ	ポリプロピレン
	詰め物	ポリエチレン

8. 同一成分・同効薬

同一成分薬:ブラダロン錠 200mg、ブラダロン顆粒 20%

同 効 薬:オキシブチニン塩酸塩、プロピペリン塩酸塩、酒石酸トルテロジン、
コハク酸ソリフェナシン、イミダフェナシンなど

9. 国際誕生年月日

該当しない

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

製造販売承認年月日:2008 年 9 月 25 日

承認番号 :22000AMX02136000

(旧販売名:ハルニンコーワ)

製造販売承認年月日:1984 年 2 月 7 日

承認番号 : (59AM) 110

薬価基準収載年月日:1984 年 6 月 2 日

11. 薬価基準収載年月日

2008 年 12 月 19 日

12. 効能・効果追加、用法・用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報

本剤は、投薬期間に関する制限は定められていない。

16. 各種コード

販売名	HOT 番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード (YJ コード)	レセプト電算コード
ハルニンコーワ錠 200mg	10564334301	2590002F1452	620008687

17. 保険給付上の注意

本剤は保険診療上の後発医薬品である。

XI 文 献

1. 引用文献

- 1) 大正薬品工業(株)社内資料:安定性試験
- 2) 大正薬品工業(株)社内資料:溶出試験
- 3) 和田靖史他:基礎と臨床,18,2445(1984)
- 4) 大正薬品工業(株)社内資料:生物学的同等性試験

2. その他の参考文献

1. 第十六改正日本薬局方解説書 2011(廣川書店)
2. グッドマン・ギルマン薬理書(第11版)2007(廣川書店)

XII 参考資料

1. 主な外国での発売状況

該当しない

2. 海外における臨床支援情報

該当資料なし

XIII 備 考

その他の関連資料

該当資料なし